広報誌

ペケレベツ

2020年1月
vol.15

撮 影 者：安保　史織
撮影場所：清水町美蔓

Pick up
夜間透析開始

―― 理　念 ――

赤十字の理想とする人道・博愛の精神にもとづき、よりよい医療を提供し、地域の利用者に信頼される病院をめざしています。

―― 基本方針 ――

1．地域医療の推進と救急医療の充実に努めます。
2．患者・利用者の権利を守り、その意思を尊重した医療を行います。
3．地域住民の健康増進と疾病予防に努めます。
4．清潔、快適で、やすらぎのある環境づくりに努めます。
5．常に研鑽を重ね、資質・技術の向上に努めます。

ペケレベツとは

アイヌ語で「明るく清らかな川」を意味しており、清水町の由来となっています。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
清水赤十字病院

〒089-0195　北海道上川郡清水町南2条2丁目1番地　TEL 0156-62-2513
FAX 0156-62-4460
URL https://www.shimizu.jrc.or.jp/　MAIL rcssoumu@shimizu.jrc.or.jp

診療報酬改定とオリンピック

病院長
藤城貴教

みなさま、新年あけましておめでとうございます。

昨年はラグビーワールドカップで盛り上がった日本ですが、今年は２年に一度の診療報酬改定と４年に一度の夏季オリンピック・パラリンピック東京大会があります。

今を去ること48年前の1972年、故郷の札幌ではアジアで初めての冬季五輪が開催され、それを契機に街は大きく様変わりしました。それまで砂利道だった道路が舗装され、どぶは下水道に代わり、市の中心部には地下鉄が走り、大会関連の大きなスポーツ施設がいくつも造られました。選手村には近代的な高層住宅が並び、自宅の周りにあった玉ねぎ畑や空き地には次々と新しい家が建てられ、街は郊外に延びていきました。まさに高度成長期を実感したものです。さて、それから半世紀近い月日が経過して今の日本はといいますと、まるでバブル経済がはじけた後の静けさのようです。少子高齢化と過疎化が進むなか、街の様子は一変し、医療のニーズも提供体制も急激に変化しています。

言うまでもありませんが、診療報酬改定は“現場いじめ”ではなく、医療提供体制を“あるべき姿”に近づけるために行われるものです、ですからこの改定が自院の経営方針とあまりにもかけ離れていた場合方針そのものを再考する必要があります。ではその“あるべき姿”に近づくにはどうすればよいのでしょうか。それには大きく3つの要素があります、一つ目は地域医療構想、二つ目は医師偏在対策、そして三つめは医師の働き方改革の実現です。当院は昨年９月に公表された“統合再編の検討を要する424病院”にめでたく？選ばれましたが、これは当院の医療提供体制がまだまだ現実に即していないことを気づかせてくれる良い機会となりました。

さて、今年の東京オリンピックですが驚くべきことにマラソンと競歩の競技が830km 彼方の札幌で開催されることが土壇場で決まりました。東京の夏の暑さは皆さんよくご存じのことと思いますが、あの灼熱の舗道を何時間も走るのは陸上競技や医学に詳しくなくとも過酷であるのは想像に難くありません。フルマラソンを走った後、肝逸脱酵素は急上昇し、心筋には点状出血が見られるとか。夏季五輪のマラソン、競歩開催地も“あるべき姿”になったのかもしれません。近年の北海道は地球温暖化のため猛暑日もたびたびありますが、今年の夏は選手のために冷夏であることを祈ります。

医療の将来は何かと不安定に思われがちですが、未来予想の中でもっとも正確といわれる将来推計人口と医療介護必要度を軸に、診療報酬改定を指針にして、医療圏の行き先を考えることはさほど難しくはありません。医療にとどまらず、職員一人一人が地域作りのかじ取り役ができるような職場の醸成をこつこつとやっていくことが今の我々に求められています。

オリンピックで最も重要なことは、勝つことではなく参加することである。同様に、人生において最も重要なことは、勝つことではなく奮励努力することである。肝要なのは、勝利者になったということではなく健気に戦ったということである。

ピエール・ド・クーベルタン男爵　（近代オリンピックの父）

新年を迎えて

事務部長
矢　田　幸　政

元号が令和となって初めての新年を迎えることになりますが、皆さまにとって平成とはどんな時代だったのでしょうか。

戦争の無い平和な時代だったかもしれませんが、バブル崩壊や消費税導入などで日常生活が緊縮し、また、毎年のように全国各地で自然災害が発生するなど、決して明るい時代とは云えなかったかもしれません。

同様に、医療を取り巻く環境も年々厳しさを増し、特に今年は診療報酬の改定を始め、地域医療構想を踏まえた病床・機能等の再検証など枚挙に暇がなく、令和は病院運営にとってますます混迷する時代になるのかもしれません。

しかし、こうした難しい状況だからこそ、赤十字の原点である人道・博愛の精神に基づき、限られた医療資源の効率的な運用や各医療機関・福祉施設・行政等との連携強化に努めて、地域医療や救急医療、そして災害救護活動等に専心するなど、心はブレないことが大切なのではないでしょうか。

また、職員一人ひとりが、様々な環境の変化を見逃さず、改善すべきところは積極的に見直すなど、頭はいつも柔軟に考えながら、一丸となって強固な病院を目指して行きたいと思っています。

そして、令和の意味は、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つこと」と云われていますが、当院においても、皆さまとともに「赤十字文化」の花を咲かせ実を結ぶ時代にして行きたいと願っています。

新年を迎えて

看護部長
大沼　まゆみ

あけましておめでとうございます。

昨年一年、皆様から多くのご指導・ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

昨年も日本中多くの災害に見舞われ、被災した皆様には心よりお見舞い申し上げます。

令和元年は、特定行為研修を開始し１名の特定行為を行う看護師が誕生いたしました。

研修を修了した看護師は、医師より包括的指示を受け医師の医学的判断を待たずに、患者さんに対し診療の補助として特定の医療行為が可能となります。

特定の行為において、安全を確保しながら治療と生活の視点でケアを提供してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

今年の医療界は、働き方改革・診療報酬改定など激動の年と考えます。

その中にあって、看護は働き方や仕事の内容など多様性が求められていると感じております。

固定観念にとらわれることなく発想豊かに柔軟に対応し、患者さん＝「大切な一人」のために寄り添い、チーム医療を推進し変化に強い、変化できる one team でありたいと思っています。

人生100年、地域のすべての人が病気を抱えながら住み慣れた場所で、いつまでもお健やかに過ごしていただけるよう健康の保持・増進、疾病の早期発見・治療、災害救護と信頼される優しく思いやりのある看護を実践していく所存でございます。そのためには職員が安心して健康で働ける環境づくりを推し進める必要があると感じております。

清水赤十字病院は、赤十字として地域の病院として使命を果たしてまいりますので、皆様のご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

今年も皆様にとって健康で幸多き１年でありますようお祈り申し上げます。

第55回日本赤十字社医学会総会＠広島市に参加して

栄養係長
千　葉　早　苗

一般演題ポスター部門で「当院における退院時の栄養情報提供の現状」を発表いたしました。

今回、苦労した点は、初めてポスターを壁のサイズ90cm ×210cm で作成したことです。驚いた点は、印刷屋さんの技術により同じセッション内では一番巨大に仕上がったことです（出費も巨大でした）。嬉しかった点は、本番直前に看護部長にお借りした“マイ指示棒”によりそれなりの恰好がつき、さらに初めて読み原稿無しで完遂できたことです。終了後は会場2件、座長1件、セッション後会場２件と計５件の質問があり、地域包括ケアシステムの構築が進むなかで全国の栄養士も「いつまでも地域で安心して生活できるため」に奔走していると感じました。また、「広島平和記念資料館」の見学では、当たり前にある生活が当たり前ではないことを改めて考える貴重な機会になりました。

学会発表は何度やってもガクブルで、力不足を思い知らされます。それを克服すべく書籍や研修会でも学びますが、日々の業務での患者さんとの関わりから得る学びに優るものは無いと感じています。今後もこの学びと研究への同意に感謝を忘れず学会発表を継続したいと考えています。この度の有意義な経験と振り返りの機会に深く感謝いたします。ありがとうございました。

認知症により過食を繰り返す独居高齢者への退院に向けた多職種連携

２階看護師
八　木　大　地

10月17日・18日に行われた第55回日本赤十字社医学会総会に参加してきました。私は「認知症により過食を繰り返す独居高齢者への退院に向けた多職種連携」というテーマで発表しました。私はポスターでの発表ということで、伝えたいことを１枚の大きなポスターにレイアウトして発表しました。学会で発表することは私にとって初めての経験だったのですが、限られた時間の中でいかに自分の思いを伝えられるかというプレゼンテーション能力を養うことができてとても貴重な体験となりました。『2025年問題』という言葉がありますが、2025年の日本は、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の３人に１人が65歳以上、５人に１人が75歳以上という超高齢社会を迎えると言われています。そういった環境の中で認知症を持つ高齢者もさらに増え、在宅での医療は今よりももっと重要になってきます。今回の自分の発表を、発表したことで終わらせるのではなく、今後の医療や看護について考えるきっかけにしたいです。

KYT(K: 危険 Y：予知 T：training) 研修に参加して

2階看護師
不　藤　有　沙

当院では、毎年、全職員を対象としたＫＹＴ研修が行われているとのことでした。私は、今年度、小清水日赤より転勤してきたため、新人以来の参加でした。

以前参加したＫＹＴ研修は、新人看護師のみを対象としたものでした。しかし、当院は全職員を対象としているため、多職種や、新人の新しい視点からの意見、臨床経験を積んだ先輩方の考えを取り入れる事ができ、自分では思いつくことの出来なかった知識を得られ、良い話し合いを行うことができました。

臨床現場では、ヒヤリハットや小さなミスが医療事故に繋がります。そのようなヒヤリハットや小さなミスを起こす前に「何かおかしい」と気付くことや、これから行うことに「どのような危険が潜んでいるか」ということを考えて気付くことが重要です。

ＫＹＴを行い、危険感受性を訓練することで、患者さんとご家族の安全だけでなく、医療従事者の安全を守ることにも繋がります。

今後もこの研修の経験を活かし、日々の業務に励んでいきたいと思います。

地域公開講座（冬に備える感染自己防衛法）を終えて

感染管理認定看護師
鶴　見　　誠

2019年10月25日（金）天気にも恵まれ、無事に地域公開講座が開催されました。たくさんの人にご来場いただき、地域の皆様の意識の高さを感じることが出来ました。

冬は、気温も下がり湿度も低下するため、細菌やウイルスが活発で飛散しやすい環境です。

冬に流行る病気として、インフルエンザ・風邪（上気道感染）等が挙げられます。

これらの病気を予防するには、手洗い・マスクの着用・ワクチン接種が重要であり、予防に勝る対策はないとの考えで、講座を進めていきました。

毎年、インフルエンザ・風邪（上気道感染）を発症する人は沢山います。細菌やウイルスに感染するのを完全に避けるのは困難です。

しかし、通常のウイルス性の風邪（上気道感染）は軽症であり、体調管理をしっかりおこない、手洗い・マスクの装着を行えば、発症や感染のリスクを大幅に軽減することが出来ます。

日頃より、体調管理に気を付け、自身が発症・感染した時は、早期に医療機関への受診をお願いいたします。そして、周囲に感染させないよう気を付けましょう。

冬本番、地域住民の皆様と一緒に、冬を乗り切りましょう。

2019年度これまでの実習・研修受け入れ状況

今年度も多くの方々が当院においてそれぞれの立場において経験を積まれました。(敬称略　12月現在)

地域医療研修(研修医)
　仙台赤十字病院　　齋藤　修悟(5/ 1～31)　塩谷梨沙子(6/ 3～28)　佐藤　　望(7/ 1～31)
　　田山耕太郎(9/ 2～30)
　釧路赤十字病院　　吉村　　眞(7/29～8/30)
　日鋼記念病院　　倉　ありさ(9/ 2～30)
　名古屋第二赤十字病院　有賀　亮太(7/16～8/ 9)　野田真利子(7/22～8/16)
　　岡田絵里子(10/15～11/ 8)　橋場　奈月(11/11～12/6)

地域医療研修(医学生)
　旭川医科大学　6年生　8名(7～8月)　5年生　21名(7月～3月)
医学概論・医療総論3(地域滞在実習)
　札幌医科大学　3年生　5名(10/29～31)
校外学習 ライフプラン事業所取材訪問
　清水高校　　1年生　5名(10/29)
職場体験
　御影中学校　　2年生　2名(10/30)　　清水中学校　2年生　3名(10/31)

　札幌医療秘書福祉専門学校　　1名(6/10～7/ 5)
　清水高等学校　インターンシップ　　4名(7/23～25)
　北海道文教大学人間科学部理学療法学科　臨床実習　　1名(12/ 2～13)

忘年会

　専攻医でまだ2か月目の身でしたが、忘年会に誘っていただきありがとうございました。
　２次会まで参加させていただき非常に楽しい忘年会でした。日頃から「顔が見える関係」だからこそ、清水日赤の忘年会はアットホームな雰囲気で居心地よく時が経つのを忘れたほどでした。とはいえ、僕の場合はまだ話したことない方もまだ多くいたので、忘年会でそうした方々と話をする機会がもてたので良かったです。忘年会では出し物も出させていただきました。「クイズミリオネア」のパロディで清水町や清水日赤に関する問題を出させていただきました。難易度は最高難易度に設定したつもりでした(特に清水町章の問題には自信があったつもりでした)が、多くの方に容易く正答されてしまいました。いつか、より難易度の高い問題を用意するか、もしくはまったく別の出し物を用意するかでリベンジできればと思っています。
　清水の皆様には忘年会だけでなく３ヶ月間多岐にわたりお世話になりました。また研修で来させていただきますので新年も何卒よろしくお願いいたします。北海道はますます寒さが厳しくなるかと思います。清水の皆様、お体にはお気をつけください。

名古屋第二赤十字病院　医師　**礒田　　翔**

清水赤十字での研修を終えて

　名古屋第二赤十字病院研修医２年の岡田絵里子です。10月半ばから４週間清水赤十字病院にて研修を行わせていただきました。
　私の所属する名古屋第二赤十字病院は急性期病院で、重症の患者さんが多く入院されます。急性期治療終了後は自宅へ帰れない患者さんは慢性期病院や施設へ転院となるため、日常生活を送るまでの経過を見ることができませんでした。一方、清水赤十字病院では急性期後のリハビリの経過も診ることができ、患者さんがより満足しで帰宅される様子はとても印象的でした。また、自宅や施設への往診も見学させて頂き、通院が難しい患者さんの経過も知ることができました。生活に密着した医療によって患者さんが安心して生活する様子は名古屋の研修では見ることができなかったため、貴重な経験ができました。
　週末には東は知床、西は積丹と道内の様々な所を観光し、北海道を満喫することができたのも良い思い出です。清水赤十字病院での研修はあっという間でしたが、病院の皆様にも優しくして頂き、とても有意義な経験をすることができました。貴重な機会を下さった皆様に感謝しています。また清水町に来ることができたら嬉しいです。ありがとうございました。

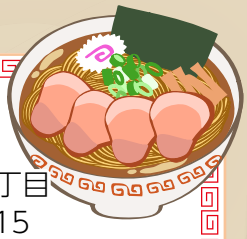
名古屋第二赤十字病院　研修医　**岡田絵里子**

Buono（ボーノ）Trip 第２弾

十勝清水のラーメンといえばココです！

【寶龍清水店】のご紹介です。

ミシュランのお墨付き！



店舗情報
ＴＥＬ：0156-62-2584
住　　所：清水町南４条９丁目
営業時間：11：30～21：15
定休日：火曜日　　駐車場：20台

札幌すすきのを発祥とし、北は北海道、南は大阪まで広く展開する大人気チェーン店、『ラーメン寶龍』。

その店舗のひとつが、なんと清水町にあります！

昭和53年に清水に創業して以来、十勝清水町民たちの「ラーメン食べたい欲」をアツアツに満たし続けていただいております。

……いいえ、清水町民だけではないのです。「ラーメンの寶龍 清水店」でネット検索いたしますと、「日本の寶龍で一番美味しい」という評判もあるではありませんか！！

その評判も決して個人的なものではありません。あのミシュランガイド（北海道2012特別版）にも紹介されているのです！！すごいですね！

その美味しさのもとは……、やっぱりチャーシューです！！

親方が国内、国外、何十種類ものお肉から一年半かけて選びぬいたこだわりの一品！それはおすすめのメニューにもなっていますよ。

【とろ旨極上チャーシューメン】！

丼からこぼれ落ちそうなほど大きく、そしてたくさん盛られたチャーシューがたまらなく美味しいんです！！盛りつけ方も、清水オリジナルですよ！

朝５時からの仕込み、季節によって寝かす日数を変える麺、店によってアレンジされるスープ、十勝産の食材にも、親方の愛が感じられます。

（筆者のお気に入りは五目ラーメンです。いつも大変お世話になっております）（小声）

ありがとうございます！　今後ともよろしくお願いします。

３階看護師　**三谷　萌子**

親方へインタビュー！

Q. お店にズラリと並ぶ有名人のサイン！印象に残っている方は？

A.1番最近いらっしゃったコロッケさんと山口智充さん。裏表のない良い人でした。

Q. たくましい腕の秘密は……？

A. 朝と夜の筋トレ、休日のアームレスリング実戦。

Q. ダンベル何キロ持てる？

A.80キロ！

Q. お客様へ一言！

A. 一杯一杯真心込めて作っています。

夜間透析を実施するにあたり

臨床工学技術課　課長
村　谷　　拓

全国腎臓病協議会の「2016年度血液透析患者実態調査報告書」では、夜間透析は全国で約３万人（10%）実施しているようだが、私たちが暮らす北海道十勝地区の夜間透析患者数は約30人程度で0.3%に過ぎない。

乖離の理由として、夜間透析を行うことは「スタッフの負担が増加する」「採算性が合わない」など病院側のマイナス要因が根強くあるためか、透析治療は決められた日中の時間内で継続することが常識とされ、就労透析患者は透析スケジュールに合わせた働き方に変えることが必然とされて来たように感じる。

今年透析センターで行った透析患者アンケートでは、就労透析患者からの夜間透析やオーバーナイト透析の要望が散見されるようになってきた。2019年11月よりはじめる「夜間透析」の決断が、少しでも透析患者の多様性に寄り添った選択肢となることを願って止まない。

夜間透析の概要

➡夜間透析日　毎月第３月曜日　17：30～０：30
➡６時間透析まで受け入れ可能
➡夜間透析実施者４名（６時間３名５時間１名）
　あと受け入れ３名可能

透析センターのご紹介

➡ベット数　17台
➡透析用監視装置　ＮＣＶ－３　ＮＣＶ－２i
　ON－ＬＩＮＥ血液濾過透析・間歇補充型血液濾過透析・
　長時間透析実施可能
➡スタッフ　医師　常勤医３名　看護師３名　臨床工学技士５名（透析技術認定士４名）
➡清水町在住者に限り無料送迎バス運行

★編★集★後★記★

冷え込みが厳しくなってきている季節ですが、熱いラーメンを提供してくれている寶龍さんに取材を行いました。親方さんはすごく優しい方でした。なんといっても、腕の筋肉がすごい。また、自慢のチャーシューが乗ったラーメンがとてもおいしかったです。ビールもサービスしてもらいました。ありがとうございます。私自身、取材後、一人で何度も足を運んでおります。

また、以前取材を行いました、鳥せいさんには、新年早々からお邪魔いたしました。特大ビール片手に、炭火焼き、ガーリックポテトをつまみに、おにぎりも最高の一品でした。また足を運びたいと思っております。

今回のペケレベツを制作するにあたり関わってくれた皆さんに心から感謝しています。

薬剤師　高橋　秀徳

人事消息

【採用】よろしくお願いします。

令和元年12月11日　主事（嘱託）
遠藤　篤海
令和２年１月１日　理学療法士
吉田　美紀
令和２年１月１日　主事（嘱託）
小西　絢香
令和２年１月１日　主事（嘱託）
金子　雄治
令和２年１月１日　主事（嘱託）
千葉　雪花

【退職】お疲れ様でした。

令和２年１月31日　作業療法士
山田　修司

【結婚】末永くお幸せに。

令和１年11月７日　臨床工学技士
野々村絵美　（旧姓　久保田）

今回掲載の採用職員詳細は次号にて掲載予定です。

❖ 編集・発行責任者：矢田 幸政　❖ 編集委員長：首藤 竹司　❖ 発行元：清水赤十字病院　❖ 印刷：東洋印刷株式会社